

自ら学ぶ子どもの育成を図る教育課程の創造と課題 ——学校改革をめざした教育課程の編成と実施を例に—

注・参考文献 一覧

- 1 カリキュラムマネジメント・ハンドブック p8 ぎょうせい
田村 知子、村川 雅弘、吉富 芳正、西岡 加名恵
- 2 教育時評No.3 9 P16～P17 岐阜大学教職員大学院准教授 田村知子
- 3 展望2016年1・2月合併号 安彦忠彦
- 4 「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童生徒自らが学びとしていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである。
人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕-指導等の在り方編-
文科省 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議 平成20年3月
- 5 1と同書 第1章 資質能力を育成を実現するカリキュラムマネジメント
3 教育課程の基本的要素とカリキュラムマネジメントの視点 (1)(2) 吉富芳正
(1) 教育目標の設定はK中実践の1に、(2)指導内容の組織は2に通じる
また、同書で吉富が描いた(P15)の教育課程の編成と実施図は、教育課程と指導計画の関係を明快に図示したものであるが、重要なのは、そこに担当する教員が介在していることである。だから、教育課程体系図と捉えると同時に教育課程にかかる教員の組織図として捉えることが大切で、そうすると経営上の問題が見えてくる。
- 6 学校でなければできない教育とは 展望2005年6月号 東京大学名誉教授 汝見稔彦
- 7 1998年当時 栃木県鹿沼東中角田昭夫校長のもとで考案活用していたシートの改作資料に添える
- 8 テストを作成・採点した教師が、結果を吟味して講座内容を決定。学年を問わず生徒は自由に選択して受講できる時間。全てを学びに行くことは不可能であるから、生徒がテスト結果をもとに(生かして)、何を学ぶべきかを選択して学びにいく体験を重視した。福島県三春町立桜中(当時)生徒がタイムテーブルを作成して臨むモジュール学習を範にしている。選択の時間を充てた。特例。
- 9 立命館大学土曜講座(第2559回、2001年6月2日)「分かるとはどういうことか」
何かを学ぶときのプロセスは...頭の中の知識が再編される... 吉田 甫
- 10 授業を担当していない教員が所有免許に基づいて実施。2002年度は特別支援学校経験のある教員がコーディネート。法令を逸脱しているという指摘もある。
著しく学力が低かったY君の国語科指導例。養護学校教科書や下学年教科書から学べる教材探しから始めた。結局小学校4年「白い帽子」の音読に落ち着いた。Y君はつかえながらも音読に励み、やがて、自ら家庭で学習するようになった。成果は学習意欲の向上。生活面ではボランティア活動に積極的に参加するようになって全国表彰。
- 11 例えば、遅刻ギリギリの生徒に「急げ！」と指示するのではなく、「時計を見なさい」という指導に変えるなどしたこと。前者は服従。後者は「自ら状況を判断し」、遅刻しないように行動をとることになる。「自ら考える」のだから、そのねらいを指導に忍ばせた。